

第26回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

～重度重複の聴覚障害児・者と高齢聴覚障害者の発達と権利を考える～

開催要綱

1. 開催主旨

全国では障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行され、東京都でも9月より手話言語条例が施行されます。一方長引くコロナ禍にあつて、聴覚障害者に対して検査による早期発見やワクチン接種等の情報が十分に伝わらず、対応が後手になっている現実もあります。

1982年、京都に初めてのろう重複者施設「いこいの村栗の木寮」が設立され、1997年から全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（全聴福研）として発展して、今年で26回目を迎えます。

当事者、家族、支援者らがお互いの実践や思いを持ち寄り、学びあう中で、当事者がおかれてきた厳しい実態を明らかにし、制度の課題や支援のあり方を深めあう中で、子どもから高齢者まで、「ひとりぼっちの障害者をなくしていこう」と、全国の施設づくりの運動を励まし、その裾野を広げてきました。

一方、福祉の制度では通過型グループホームが検討されたり、大阪ではグループホームのマンション立退き裁判が行われたりしているように、障害者にとって暮らしやすい社会の実現に課題も少なくありません。

このような社会情勢の中で、下記のこの3つの柱を目的として、開催します。

- ① 支援の実践を持ち寄り、聴覚障害児・者福祉を前進させます
- ② 重度重複の聴覚障害児・者、高齢聴覚障害者、難聴者・中途失聴者の生活や発達の要求を掘り起こし、支援の実践につなげます
- ③ 制度づくりにむけた課題提起と制度改善に取り組みます

2. コンセプト

新型コロナウイルス感染症の影響により事業や運動に大きな影響を受けてきました。検査やワクチン接種等感染対策も進められていますが、根本的な収束は見通せないため、全体講演はインターネットの映像配信、分科会はホームページによる事前の意見交換により討議の方向性を共有し、当日オンライン形式で開催します。

今後の全聴福研のあり方を検討するための集会として位置づけ、多くの関係者、支援者の参加を呼びかけて、東京集会の成功が次の集会の発展につながるように取り組みます。

3. 主催

社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会

4. 共催

社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会
社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会
社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会
社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
全国ろう重複児・者家族連絡会

5. 協力（予定）

社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会
社会福祉法人 千葉県聴覚障害者協会
特定非営利活動法人 つくし

6. 後援（予定）

厚生労働省／(一財)全日本ろうあ連盟／(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／(一社)全国手話通訳問題研究会／(一社)日本手話通訳士協会／(社福)全国盲ろう者協会／(社福)全国手話研修センター／(特非)日本障害者協議会／全国障害者問題研究会／きょうされん／障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会／全国ろう重複障害者施設連絡協議会／全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会／(特非)全国聴覚障害者情報提供施設協議会／(特非)ろう教育を考える全国協議会／全国聴覚・ろう重複児施設協議会／全国難聴児を持つ親の会／(一社)日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会／全国ろうあヘルパー連絡協議会／(社福)全国社会福祉協議会／東京都／東京都教育委員会／(社福)東京都社会福祉協議会／東京都市長会／東京都特別区長会／東京都町村会／(社福)NHK厚生文化事業団／(社福)朝日新聞厚生文化事業団／(公財)毎日新聞東京社会事業団／(社福)読売光と愛の事業団／(社福)産経新聞厚生文化事業団／(社福)東京新聞社会事業団／(公財)日本テレビ小鳩文化事業団(順不同)

7. 開催期間 2022年11月15日(火)～12月18日(日)

①インターネット動画配信期間【12月1日(木)～18日(日)】

基調報告・記念講演・特別報告等を事前に収録し、YouTubeで配信します。

なかま企画による各事業所の紹介も併せて配信し、期間中は好きな時間に視聴できます。収録したDVDはオプションで購入することもできます。

②オンライン分科会【12月10日(土)・11日(日)・18日(日)】

i) 11月15日から11月30日までホームページにレポートを掲載し、各分科会の掲示板を設けます。掲示板で質疑や意見集約を行い、共同研究者と司会者により討議の方向性をまとめます。

ii) 12月10日に第1、第2分科会、12月11日に第3、第4分科会をZoomミーティングによりオンライン開催します。

iii) 12月18日 第5分科会のみ集合とオンライン複合形式で開催します。

第5分科会の会場は東京都青梅市福祉センターの予定です。

【分科会の開催方法が例年と異なります。ご注意ください】

①分科会レポートについて

重複聴覚障害者や高齢聴覚障害者、聴覚障害児、難聴者・中途失聴者等への実践レポートを募集します。分科会レポートは、**9月25日までにレポート提出計画書で概要を提出いただき、10月15日までに本レポートを提出してください。**

②参加する分科会と他の分科会の視聴について

参加者は1つの分科会を選び参加申込みします。参加する分科会以外の分科会もカメラ・マイクを切断して視聴することができます。

※コロナの収束が見通せない中で、このような形での開催になることをご理解ください。

幅広い立場からの実践レポートの応募をお待ちしております。

8. 参加人数 500名

9. 集会参加費 5,000円(学生3,000円) (DVD代はオプション500円)

10. 企画内容

《主催挨拶》 社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会 理事長 南宮由和

《基調報告》 社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会

《特別報告》 「東京のろう教育と卒後の状況」

国立大学法人東京学芸大学教職大学院 特命教授
洗足学園音楽大学教職センター 特任教授
前東京都立立川ろう学校長
村野 一臣 氏



《記念講演》

「ろう重複者をはじめとする聴覚障害者を取り巻く情勢と課題について」

特定非営利活動法人 日本障害者協議会 理事

日本社会事業大学名誉教授

佐藤 久夫 氏

【プロフィール】

「佐藤先生は日本の障害者に関わる制度作り、運動づくりに最先頭で関わって来られ、日本障害フォーラム（JDF）で障害者権利条約の平行レポート（市民社会から国連に提出するレポート）作りにも主要メンバーとして関わられています。

聴覚障害関連でも様々なご協力をいただいております、東京のろう重複施設の研修会に講師としてご協力いただいたこともある先生です。

現在の聴覚障害者を取りまく情勢と課題を大きな視点からご講演いただきます。」

《オンライン分科会》 ※共同研究者、司会者は依頼予定

第1分科会 12月10日(土)9:30-12:00

「福祉実践と福祉制度のあり方を考える」

・共同研究者：石倉 康次 氏（立命館大学教授）

・司会：【埼玉聴覚障害者福祉会 依頼】

聴覚障害児・者の暮らしを支えていくために、障害者総合支援法や介護保険法など制度が抱えない課題を整理し、今後の制度の在り方、取り組みや運動について討論します。

第2分科会 12月10日(土)13:00-15:30

「発達を支える（労働・発達・こころとからだの健康・集団づくり）」

・共同研究者：武居 渡 氏（金沢大学教授）

・司会：【京都聴覚言語障害者福祉協会 依頼】

発達、労働、健康、コミュニケーション保障等について各地域・事業所等、様々な立場からの実践を持ちより共通する課題を明らかにし、議論を深めます。

第3分科会 12月11日(日) 9:30-12:00

「地域生活を支える（重複・難聴・放課後デイ・地活）」

・共同研究者：渡邊 健二 氏（全国ろう重複障害者施設連絡協議会会長）

・司会：【ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 依頼】

重複聴覚障害者や聴覚障害児、難聴者、中途失聴者が自由にコミュニケーションを図ることができる社会環境を整えるためには、既存の資源に加えて、新しい社会資源の創出、ネットワークづくりが大切です。どのような資源があれば、地域で豊かに暮らせるのか、また支援体制はどうあるべきか等を考えます。楽しく豊かな暮らしのために工夫されている実践を持ち寄り交流します。

第4分科会 12月11日(日) 13:00-15:30

「高齢期を豊かに支える（在宅支援・施設の暮らしづくり）」

・共同研究者：大矢 暹 氏（社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会理事長）

・司会：【大阪聴覚障害者福祉会 依頼】

高齢聴覚障害者の「人として」の暮らしには、身体や認知機能の低下への支援だけではなく、安心してコミュニケーション支援を受けられる体制づくり、介護者家族同士の交流、地域社会で利用できる資源の活用や協力が得られるネットワークづくりが不可欠です。施設においては画一的なケアではなく、本人の願いに寄り添い、その人らしい人生を尊重し、生きることを支え、生きる意欲を創出するための援助や介護について実践交流します。

第5分科会 12月18日(日)10:00-15:30

「家族の願いと家族会」

- ・共同研究者：吉見 剛二 氏（全国ろう重複児・者家族連絡会顧問）
- ・司会：谷内 園子（東京ろう重複者とあゆむ会） 吉田 洋子（どんぐり家族会）

重複障害児・者の親、家族が抱える悩みや思いを交流し、親・家族の置かれている実態を明らかにします。また、悩みや思いを率直に出し合い共有することで、孤立する家族をなくします。そして、各事業所が抱えている新規利用者の確保や事業継続、専門的な支援・実践の充実にむけて、家族の思いや家族会としてできること、役割等について意見交換をします。この分科会を通じて、事業や実践の原点である家族の願いや実態を多くの関係者と共有し、今後の家族支援や家族会の発展そしてろう重複のなかまの豊かな人生につなげることをめざします。

1.1. その他

下記の企画も併せて準備します。詳細、申込方法は集会ホームページでお知らせいたします。

- ①「自主交流会」 参加者が発起人となり職種や課題別に集まって交流を深めます。
- ②「なかま企画 わたしたちの事業所紹介」 集会ホームページに希望される事業所の紹介動画を掲載します。
- ③「なかまの保育」 参加者のご家族・なかまが集い、なかま同士自己紹介やレクリエーション等を通して交流を深めます。保育は3歳以上の方が対象です。

情報保障について

盲ろう者向け通訳の手配は集会事務局では準備できかねます。各自で地元の行政や派遣実施事業所と相談してください。どうしても確保が困難な場合は事務局にご相談ください。

1.2. 申込み締切り

集会ホームページ参加申込みフォーム、または申込表に記入の上、ファックス、メールにて10月31日(月)までにお申込みください。申込み締切り後に参加者にホームページの動画配信、分科会参加用ID等を掲載した参加証・集会誌資料集を郵送します。

お問い合わせ先

社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会内
第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会事務局

専用ホームページは右のQRコードから ⇒

〒160-0022

新宿区新宿 2-15-27 第3ヒカリビル 6階

FAX : 03-6273-0631

TEL : 03-6273-0400 受付時間 10-16時

Email : j-zenchofuku@tokyo-shuwacenter.or.jp

